

折に触れ 四字熟語

NO. 24 『槿花一日』 きんか いちじつ

< 意味 > 人の世の栄華のはかないことのたとえ。むくげの花が朝咲いて、夕暮れには散ることからいう。

< 出典 > 白居易「放言」(詩)

泰山不要欺毫末	泰山は 毫末を 欺くを要せず、
顔子無心羨老彭	顔子は 老彭を羨むに心無し。
松樹千年終是朽	松樹千年なるも 終に是れ朽ち、
槿花一日自為榮	槿花一日なるも 自ら榮を為す。
何須戀世常憂死	何ぞ須ひん 世を戀ひて 常に死を憂ふを、
亦莫嫌身漫厭生	また身を嫌ひて 漫に生を厭ふ莫れ。
生去死來都是幻	生去 死來 都て是れ幻なり、
幻人哀樂繫何情	幻人の哀樂 何の情に繫る。

通 釈：泰山は高いからといって、小さいものを侮ろうとはしなし、顔回は短命ではあったが、長寿の彭祖を羨むような気持ちは無かった。松の樹は千年の樹齢があっても、やがて最後に枯れ朽ちるものだし、朝顔の花は一日の寿命しかないが、それはそれで花を咲かせるものである。そうであるから、俗世を恋い慕って常に死を苦にする必要はないし、我が身を嫌って、むやみに生を厭ってもいけない。生まれたり死んだりとは全て幻である。その幻である人間の哀樂の情など、一体どんな現実と関係があるというのか。

語 釈：<老彭>は彭祖のこと。八百歳の長寿を保ったという。<槿花>むくげ。木槿花。朝顔。朝、花開いて夕べに凋むところから短命なものに喩える。
白居易の詩は、四字熟語の意味と違って「槿花一日」を「松樹千年」と対比させ、槿花の短命な栄華をむしろ賛美しています。

一 言：槿・木槿の花は韓国の国花です。朴槿恵韓国大統領の名は、この国花にちなんで名付けられたのでしょうか。一連の問題で、ついに弾劾訴追案が可決されることになりました。朴槿恵大統領の栄華がまさに終焉を迎えようとしています。

「槿花一朝」(きんか いっちょう)の四字熟語もあります。

参照文献：新釈漢文大系「白氏文集・卷第十五・律詩三」 三省堂「四字熟語辞典」 岩波書店「四字熟語辞典」